

# 訪問介護 増えているけど…



利用者の自宅を訪問し介護するヘルパー=3月、東京都内で

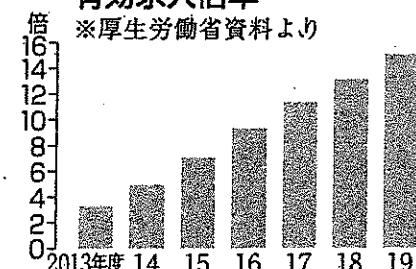
介護が必要な人の自宅に訪問し、日常生活を助けるホームヘルパーの人手不足が深刻になっている。厚生労働省によると、二〇一九年度の有効求人倍率は一五・〇三倍。求職者一人に十五件の求人がある計算だ。訪問介護の利用者はここ十年増加している。ヘルパーの高齢化も進み、在宅介護の支え手が危機的な状況だ。

ヘルパーの仕事は大きく二つに分かれ、排せつ、食事、着替えの「身体介助」

# ヘルパー不足深刻

## 「専門性評価してほしい」

ホームヘルパーの有効求人倍率  
※厚生労働省資料より



賃金は下降傾向で人手不足に。どこの法人もぎりぎり、かつかつの人員だ」と指摘する。

新型コロナウイルスの流行で離職者が出了事業所も多い。桜庭さんは「職員採用のために民間の職業紹介事業者に払う手数料は数十万円に上る例もある。政府

や自治体に職員を安定的に確保できるように求めたい」と訴える。

訪問介護の事業者がそうじ介護でも特別養護老人ホーム（特養）など施設の介護職は四・三倍（一九年度）と大きな差がある。

ヘルパーの平均年齢は五・四・三歳。年代別に見ると、六十代以上が39%を占め、二十代は4%にとどまる。公益財団法人「介護労働安定センター」の調査（一九年度）では訪問介護事業所の81%が人手不足と答えた。

訪問介護の事業者がそうじ介護でも特別養護老人ホーム（特養）など施設の介護職は四・三倍（一九年度）と大きな差がある。介護度が低い人の生活援助は一部で「家政婦代わりに使われている」との批判があり、財務省は介護保険から制度を外し、市町村事業に移したいと考え。

ヘルパーは非常勤が多く、家族の扶養内で働く人も多い。京都ヘルパー連絡会（京都市）の桜庭葉子代表は「介護保険が始まった二十年前は他業種と比べて比較的時給が高く、資格を取ってヘルパーにならが多かったが、その後の